

事前課題（ヒアリングシート）の記載について

1. 事前課題「地域変革のためのヒアリングシート」を記載する上で、記入例を参考にしながら記載願います。（下記に示しています）
2. 記載にあたっては、実際に支援されている利用者 1 名を想定（本研修で事例提供している利用者）し、この利用者が地域とのつながりや、社会関係性等についてわかる範囲で記入してください。不明なところは記入する必要はありません。
3. この事前課題のシートは社会福祉士会が作成したものを使用しております。記載の多い、少ないが研修に影響することはありません。

【記入例 事例】

<事例> 一人暮らしの A さん（80 歳・女性）は、自宅の中で転倒し、大腿骨頸部骨折で 1 か月間入院しました。入院前は、地域の会食会や体操教室などにも積極的に参加していました。入院中のリハビリのおかげで、退院時には、杖で歩ける程度にはなりましたが、転倒に対する不安から外出する気持ちにはなれず、自宅に閉じこもりがちになってしまいました。離れて暮らす娘さんは、そんな A さんの今後を心配し、地域を担当する地域包括支援センターに相談しました。相談を受けた支援センターの社会福祉士が A さんと面談しながら、以下のヒアリングシートを作成しました。

地域変革のためのヒアリングシート（利用者から見た地域の状況）

【1】利用者が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について

組織の名前は？	地域の体操教室
どの程度の「参加」か？	以前は、週 1 回参加していたが、今は休んでいる
参加しやすい条件整備がなされているか？	今は、そこまで一人で行くのが心配
どういう条件を整えば、もっと参加しやすくなるか？	誰かが一緒に行ってくれたら不安が少なくなるかもしれない

<注>自治会・趣味グループ・学校・ファンクラブ・生涯学習グループ・
各種〈連続〉講座・ボランティアグループ

【2】利用者の交友相手〈友達〉について

どんな関係の人	近所の友人、体操教室の仲間
利用者の資源になりうるか	電話や来訪で話し相手になってくれている
どうしたら資源になるか	外出の誘いをしてもらえるように働きかける

<注>井戸端会議の相手・同窓生・趣味友達・講座友達・級友・

【3】利用者が所属している当事者組織について

どんな組織に属しているか	高齢者の人が参加している体操教室や、地域の会食会
利用者同士の問題解決のために十分機能しているか	地域に住む高齢者が外出する機会や仲間づくりをする場となっている
もっと機能するためには、どういう支援が必要か	新しい方も参加してくれると仲間が増えるかもしれない
利用者はどんな役割を果たしたいか	けがをしてもまた外出ができることを他の参加者に伝えてくれたらよいのではないかと
その組織は利用者にとってどんな意味があるか	新しい仲間を増やす。自分の居場所や役割が認識できる

【4】利用者に（福祉的に）関わっている人や組織・企業（商店）・隣人について

どんな関わりをしてきているか	近所のコンビニの店員さんが、買い物するとき、家まで荷物を運んでくれる
もっとすすんだ関わりをしてもらうには、どんな条件が整備されたらいいのか	一人の店員さんだけでなく、ほかの店員さんでも同じように親切にしてくれて、それが普通のことになったら、もっと買い物がしやすくなる
こちらとしてどんな努力をしたらいいか（どんな仕掛けを施したらいいか）	高齢者がこんなことに困っているということを知らせていく

<注>行きつけの商店の主が、店頭で親切にしてくれる程度でもいい。

【5】利用者が見込んでいる相手（相談に乗ってくれたり、困った時助けてくれる人）

行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

その利用者が見込む相手はどのような条件があるのか	自分の話をよく聞いてくれる人。ゆっくりとしたペースで誘い出してくれる人
利用者が見込んでいる人が、見込まれたことをきちんとしているか。	Aさんの性格を理解しながら対応してくれている
していないとすれば、それはなぜか	Aさんがしてほしい誘い方で声がかけていない
見込まれたことをその人が実行するには、どのような働き掛けが必要なのか。	Aさんのことをよく伝えてみる。どういう風に声掛けしてほしいか、誘ってほしいか、助けてほしいかなど

<注>なぜその人を見込んでいるのか。

【6】利用者の親族で、利用者が頼みにしている相手について

その相手は、利用者の期待に添うように行動しているか	Aさんの娘さんが、相談に乗ったり、困ったときは助けてくれている
していないとすればそれはなぜか	娘さんも仕事をしているので、すぐに対応できないことがある
どうしたら期待に添うように行動するようになるか	すべてを娘さんに頼むのではなく、役割分担をしていく
他の親族はなぜ頼りにならないのか	困ったときに駆けつけてくれる距離にいる親族がない
どうしたらもっと頼りになる親族になるのか。	電話で困りごとに対応してもらえるように、日頃の様子を伝えておく

【7】利用者の〈これから戻る〉近隣は、利用者にとっていい近隣か。

どのように頼りになるか	知っている人がたくさんいる
どのように頼りにならないか	Aさんより高齢の人が多く
どんな人材が存在しているか〈世話焼き・ロ利き・など〉	会食会のボランティアさん、民生委員、2軒先の昔からの友達
もっと頼りになる近隣にするにはどうしたらいいか	顔見知りを増やしていく

【8】利用者の周囲で、活用できそうな地域資源はあるか。

どんな資源が分布しているか〈いわゆるボランティアや民生委員、福祉推進員だけでなく、世話焼きさんや、保健福祉のプロ、各種公共機関なども〉	市役所、地域包括支援センター、地域活動センター、民生委員、ボランティア、昔からの知り合い
それぞれどんな資源性を持っているか	サービスの調整、地域活動の場、ゴミ捨てや買い物の手伝い、日常の見守り、介護サービスの調整機能
それぞれ利用者にどんな資源になりうると思うか	介護保険サービスの利用、地域活動への参加、外で転んでも助けてくれる人がいるという安心感
それらの資源を利用者に振り向けるにはどんな仕掛けが必要か	Aさんのことをもっとよく知ってもらう。少しずつ時間差で声をかけてもらえるよう調整する
それぞれがより強力な資源になるには、どんな仕掛けが必要か	同じようなけがをした人のお手伝いをする時の注意点などを勉強する機会を提供する

【9】利用者にとって「隠れた資源」となっているもの〈利用者を元気にさせているもの〉について

あるとすればそれは何か	地域活動センターの花壇の花
-------------	---------------

<注>特に動植物や自然環境、日常生活の各種グッズ、遊び・スポーツなど、人間以外の資源に着目。

【10】 利用者は地域に対して、どんな資源性を有しているか。

資源性とそれが機能している対象を羅列	けがから回復していく様子、杖で歩いている姿、地域の体操教室、コンビニ
利用者が頼りにしている相手に対して、どんな資源性を発揮しているか	コンビニの店員さんに、高齢者に対する接し方を自然に伝授している
利用者が潜在的に有している資源性は何と何か	歩くのが不安定、リハビリをするとよくなる歩行状態
それぞれ誰に対して資源となりうるか	同じけがをして悩んでいる人、歩くのに困っていない人
利用者の資源力を増強させるには、どんな支援が必要か	手助けしてもらうことに対する後押し 外出の促し

＜注＞隣人の相談相手、同じハンディを持った人の相談相手、趣味グループなどで、ユニークな働きをしている、など。

【11】 利用者にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか。

これまで挙げられた資源相互の連絡はどの程度なされているようか。お互い〈資源同士〉、その利用者に関わっていることをどの程度承知しているようであるか	民生委員は会食会や体操教室のこと、そこでできている仲間関係は把握している 地域包括支援センターは市役所の保健師に体操教室での様子を聞いている 娘さんはコンビニに親切にしてもらっているお礼に行っている
もっときちんとネットワークができるためには、どんな支援が必要か	Aさんを中心にした地域のお助けマップを作成してみる。 不足している部分がないか確認してみる

【12】 利用者の自宅〈居住場所〉は、

資源を発掘・活用するのにどのように適しているか、または適していないか	昔から住んでいるところなので、知り合いが多い。高齢者も多いが、その子供たちも幼いころからのつながりがあり情報交換ができている
より多くの資源を発掘・活用するために、どんな環境整備が必要か。〈利用者のセルフケアマネジメント能力の開発。自宅の改造。支援者の確保。資金援助など〉	安全に外出できる環境の整備。玄関先の住宅改修。電動シニアカーなどの活用。屋外歩行の介助者

【13】 利用者のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう。

セルフケアマネジメント能力の評価	自分の体の状態がきちんと理解できる。無理はしない。ご近所の付き合いがきちんとできている
------------------	---

＜注＞人に好かれる〈人が寄って来る〉・自分も人が好き・人の好き嫌いが無い・困ったら困ったと言える・だれにも気軽に助けを求めることができる・助け手を上手に探し出す・お礼の言い方・仕方も上手・人間関係に長けている。自分もお返しができる・自分の〈他人に〉できることを上手に生かす・自分の意思をきちんと伝えられる・コミュニケーション手段を持っているし使える・どこへでも気軽に出かける・人を呼び込む場〈空間〉を確保している・セルフケアマネジメントのための支援者〈秘書?〉を確保している